

倭の五王たちの真実

『日本書紀』が仕掛けた壮大なミステリー

伊藤雅文（著） ワニブックスPLUS新書／令和7年12月9日発売／定価 1,000円＋税

倭の五王は、古代史解明に重要な存在ですが、『宋書』が記すのは南朝宋への遣使朝貢です。それは、倭国が宋の冊封国であったことを意味します。天武天皇が7世紀末葉に編纂を命じた国史は、完成時点でそれまでの日本の歴史を確定させるものでした。

そこに「倭の五王」を明記するのでしょうか？

冊封国であった事実は天武天皇朝や日本の正統性・神聖性を棄損するものでしかありません。事実を記載するはずがないのです。天武天皇は「倭の五王の隠蔽」を命じたに違いないのです。

さらに、完成する『日本書紀』には大幅な紀年延長が施されます。

つまり、倭の五王は二段階の改変を受けているといってよいのです。

だから、倭の五王の真実に近づくためには、紀年延長を復元し、天武天皇の隠蔽方法を探り出すことが必須なのです。

本書はその解明に挑み、真の五王を比定しました。

